

第1回大村市地域福祉計画推進委員会 議事録（概要）

日 時 令和2年2月5日（水曜日） 19時～20時30分

場 所 市役所第2応接室

出席者 委員 11名中10名出席 1名欠席

事務局 4名（福祉保健部長、福祉総務課長、福祉総務課長補佐、福祉総務課主事）

次 第 1 開会

2 委嘱状交付

3 福祉保健部長挨拶

4 はじめに

（1）委員紹介・事務局自己紹介

（2）委員会設置要綱の説明

5 議事

（1）委員長・副委員長の選任について

（2）第2期 大村市地域福祉計画の策定について

6 その他

7 閉会

※委員の出席状況に合わせ、次第の順番を変更して進行

事務局説明

次第1 開会

次第3 福祉保健部長挨拶

次第4 資料の確認（資料、施策評価表 各1部）

設置要綱の説明（資料38ページ）

次第5 議事 第2期地域福祉計画の策定について

（配布資料を使用し説明）

1 地域福祉計画について（資料1～4ページ）

2 第1期地域福祉計画の評価（取組内容の一部を紹介）

○委員 A

施策評価表 2 ページにある「障害者週間」の「害」の字は、漢字でいいのか。大村市は方針としてはひらがなの「障がい」を使用するのでは。

●事務局

行政のなかで標記の仕方が分かれている。名称として使われている部分は「障害」と漢字で標記をしている。

大村市が個別で設定する部分では「障がい福祉課」のように、ひらがなを使用している。そういうふう内部で使い分けをしているため、表現が混在してしまっている。

●事務局

特に法令に基づいたものなどは、そのままの表記を使っている。

○委員 B

法律では「害」を使用している。

○委員 C

障がい者の立場からもいろいろ意見がある。漢字に拘ることはないのではないかという意見がどちらかといえば多い。

市長が表現のありかたについて取組みをされていて、全国的にもされている。出来るところから変えていき、障がいの理解を求める一つのアピールにもなる。

○委員 D

施策評価表 14 ページの生活困窮者支援対策の推進（追加基本施策）について、資料 2 ページの表中、基本目標 2、基本施策 3 は「生活困窮者自立支援制度の推進」となっているが、これは途中で「自立」を入れたのか。それと、「対策」を「制度」に変更したのか。

●事務局

標記の誤りであった。「生活困窮者自立支援対策の推進」が正式な施策名である。

●事務局

ほかに気づきなどあれば、あとから、または後日でも事務局へご連絡をいただきたい。

次に、資料 6 ページ「国が目指すビジョン」から説明をしたい。

次第5 議事 第2期地域福祉計画の策定について（つづきから）

（配布資料を使用し説明）

- 3 国が目指すビジョン（資料6～8ページ）
- 4 第2期計画策定について（資料9～21ページ）
- 5 諮問（案）（資料22ページ）
- 6 市民アンケートの実施について（資料23～34ページ）

●事務局

長くなったが、一括して説明をした。基本的に第1期計画を継承して、第2期計画の策定を進め、法の改正、国の考え方が変わってきた部分を盛り込んで計画を策定する。

データも示したとおり、大村市は現在人口が増え続けているが、将来的には人口減少がするという推計が出されている。それを踏まえた、少子高齢の到来を見据えた形で第2期計画策定が必要である。

そうしたなかで、データだけではなく地域の声を聞くため、アンケートや地域に出向いているいろいろな方の話を聞いていきたい。

質疑応答

○委員B

アンケートの回収率について、見込みはどれぐらいを想定しているのか。

●事務局

前回同様 33%程度で、1,000名程度の回答を見込んでいる。QRコードを使用してホームページで回答を出来るように工夫をし、回収率の向上を図っている。

○委員B

何かの集まりに出向いて、その場で書かせるようなことは考えてないのか。

回答できる方は限られていて、障がいをお持ちの方はなかなか書けなかったりする。なのでそういった団体に出向いて書いてもらわないと、偏った結果となる恐れがある。

郵送方式のアンケートは難しい。会議等に出向いて説明し、その場で書いてもらった方がいいのではないか。

●事務局

市民の声を多く集めたいので、いただいた意見のように郵送、インターネットだけではなく、そういう機会を見つけて対応できるように検討していきたい。

○委員B

人数も大切だが、いろんな方からの意見を回収してもらいたい。前向きな検討をお願いしたい。

○委員E

アンケートの回答方法について、22項目あるが設問の下に「1つ」や「あてはまるもの全てに」とか小さい字で書いてある。

高齢者に対して、その場で口頭で説明しても間違った記入をされたことがある。「1つ」や「全て」を大きくすべきではないか。

●事務局

文字の大きさや見え方を分かりやすい形に変えていく。

○委員B

問によっては期待感を持たれる。困りごとに対して手伝ってもらえるのではないかと、逆に市民に対して何かを要求しようとしているのではないかなど。アンケートの意図をしっかりと整理して、聞かれたときに説明できるよう準備を。調査の意図をしっかりと持っておかないと、ただアンケートをすればいいというものでもない。

P D C Aの「A」をするための「C」にあたる大事なアンケートなので、しっかりやっていただきたい。

現状分析のなかでボランティア数の推移が増えているが、実際のところ動いているのは一部の人は。

また、町内会加入率が低下しているが、例えば年齢別にみるとどうなのか。高齢者の増加、若い人たちの転入もある。若い人たちがどうして加入しないのか突き詰めないと、町内会加入率という数値だけにこだわってしまうと本質が見えなくなってしまう。

互助は大事だが、自助がそもそも低下してきている。図では自助が中心にあるが、自助が厳しいから共助が必要になってくる。

また、「支援力」ももちろん大事になってきているが、助けてほしいという声を拾い上げる「受援力」が今すごく必要。ひきこもりや介護に苦しんでいる人の声は届かない。受援力が強まる取組みを行っていく必要がある。

あとは認知症介助であれば、家族が中心になってやっている。見方を変えれば、そうした家族は認知症の専門家である。そういった方の意見をうまく取り入れ、当事者の力を借りてもいいのではないかと。

助けられる人も助ける側になれる。そうした発想を持っていただきたい。

○委員 F

アンケートについて。問1から問6に「あてはまるもの1つに○をつけてください」とあるが、これは必要か。先ほども高齢者にアンケートは難しいという話があった。性別や年齢は普通1つにしか○をしないだろう。そこにあえて説明書きをしたら、逆に複雑になるのでは。

○委員 G

問4では職業を一つに限定しているが、人によっては複数の仕事をしている人がいるのではないか。

○委員 F

別のアンケートが実施された際に、性別や年齢など小さなことにも過敏に反応される方がいた。どういう目的でここまで書く必要があるのか、本当に見直しのためのものなのか、など懐疑的な意見があった。

また、アンケート回答用紙に実施している市役所の課名が書いて無く、不信感を持たれていた。趣旨の説明を複数回行い、ようやく理解していただいた経過がある。

受け取り側が最近はそのような傾向が強いと感じた。しっかりと準備をしていただきたい。

●事務局

いただいた意見のとおり、何を根拠に、何のために聞いているのかをしっかりと準備し、問いかけられた際にしっかりと説明できるようにしておきたい。
設問の表現についても見直しを行う。

事務局説明

次第2 委嘱状交付

次第4 委員紹介・事務局自己紹介

次第5 委員長・副委員長選任

その他 連絡事項

2回目の推進委員会については資料等の作成後に日程を調整し、再度連絡する。

以上。